

授業科目名	忍ヶ丘教養Ⅱ	教員名	松田 昭憲 (実務経験のある教員) 杉田 康之 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	必修
					小学校教諭	必修
科目番号	SIN203	配当年次	2年前期		幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	選択
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	忍ヶ丘教養Ⅱは、「地域・国際社会における教育の理解と教育者としてのキャリア形成」をテーマとしている。地域の教育の現状を踏まえてその課題と現在行われている取り組みについて正しく認識し、地域の教育問題について多面的に考えることができるようになることを目標とする。さらには地域や国際社会に貢献できる教員となるための責任と自覚を持てるようになることを目指す。到達目標は以下の4つである。授業形態は講義とする。					
到達目標	(1)宮崎県の歴史、文化、地理、そして教育・福祉について他の地域との比較からその特徴を述べる ことができる (2)宮崎県における教育・福祉の現状を踏まえて、課題と現在行われている取り組みについて正しく認識し、解決方法を考察することができる (3)宮崎県の教育や福祉の現場で活躍する人々の教育観や人生設計を知ることによって自身のキャリアデザインのモデルにする (4)在外教育施設の現状から国際社会に貢献できる教員としてのキャリアデザインについて考えることができる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	本授業は、大きく四つの柱から構成される。 第一に、宮崎県の歴史・文化・地理について、他地域との比較を通してその特質を学ぶ。 第二に、宮崎県出身の郷土の偉人の思想や生涯に触れ、その生き方を通して自らの生きる指針を見いだすとともに、地域に貢献することの意義を理解する。 第三に、宮崎県における教育・福祉の現状や課題、そして現在の取組について学ぶ。行政機関や学校現場に所属する講師の講話を通して地域の教育課題を見だし、自身のキャリアデザインを構想する手がかりとする。 第四に、国際社会と教育の関係について理解を深め、国際社会に貢献できる教員としてのキャリアデザインについて考察する。 ・授業形態は講義とし、学内外から特別講師を招聘する。 ・地域に根ざした教員の在り方について理解するとともに、宮崎県の歴史・文化、地理・風土、経済・産業を学び、他地域との比較を通してその特質を把握する。 ・宮崎県出身の偉人の思想や生涯に触れ、その生き方を通して自らの生きる指針を見だし、地域に貢献することの意義を理解する。 ・宮崎県における教育・福祉の現状と課題について考察する。 ・行政機関や学校・保育現場で活躍する方々の講話を通して、地域の教育課題およびその解決の方向性を見だし、自身のキャリアデザインを構想する。 ・在外教育施設の現状を通して我が国の教育を相対的に理解し、国際社会に貢献できる教員としてのキャリアデザインについて考察する。 なお、授業ではプレゼンテーション、グループディスカッション、ディベート等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。					
履修条件・注意事項	あらかじめ「フレッシュマン・セミナー」「忍ヶ丘教養Ⅰ」を履修し、単位を修得していることが望ましい。					

授業計画	<p>第1回：授業のオリエンテーションを行い、授業内容・課題・評価について説明を行う。レポートの書き方の基本的な事項（引用の取り扱い等）を確認する。（目標(3)）〔松田・杉田担当〕（以下、学内外の特別講師）</p> <p>第2回：幼児教育・保育の現状と課題を踏まえ、子ども主体の幼児教育・保育の実践などについて、専門家の講話を聞く。（目標(2)）</p> <p>第3回：宮崎県出身で幕末の学者、安井息軒の思想と生涯について、宮崎市安井息軒記念館専門員による講話を聞く。（目標(1)）</p> <p>第4回：宮崎県の歴史と文化について、文化財の専門家による講話を聞く。（目標(1)）</p> <p>第5回：宮崎県の自然・歴史・民俗・美術・産業など、幅広い分野を総合的に扱う博物館と博学連携について（目標(2)）</p> <p>第6回：地域共生社会の実現に向けた取り組みについて講話を聞く。（目標(2)）</p> <p>第7回：海外にある在外教育施設（日本語学校等）の現状について、日本人学校に勤めていた講師による講話を聞く。（目標(4)）</p> <p>第8回：「忍ヶ丘教養Ⅱ」中間発表会 自身の探究テーマに基づき、調査した結果を発表する。（目標(2)）</p> <p>第9回：探究学習の組み立て方や発表の方法について、スーパーサイエンスハイスクールの指導教諭の講話を聞く。（目標(3)）</p> <p>第10回：宮崎県の教育の現状と課題について、宮崎県教育研修センター主幹による講話を聞く。（目標(2)）</p> <p>第11回：情報・データサイエンス・AIを用いるにあたっての留意事項（個人情報保護や情報倫理など）について、専門家の講話を聞く。（目標(3)）</p> <p>第12回～第15回：「忍ヶ丘教養Ⅱ」発表会 学生による口頭での研究発表会（質疑応答を含む）を行う。その際に学生は、質問の要点を明確にした質問をするように注意する。発表会后、学生毎に発表の振り返りを行う。その際に発表をしたリ、他の学生の発表を聞いたりして気づいた点をまとめる。（目標(2) (3)）</p>
授業外学修時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：第1回でレポート課題を提示するので、各自各回の内容について調べておくこと。 ・事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。
学生に対する評価	<p>到達目標(1)～(4)に合わせた授業レポート課題および、発表会での調査・発表内容を、総合的に評価する。定期試験は行わない。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	講義に必要な資料はすべて配布する。
担当者からのメッセージ	本講義が受講生諸君の将来について考える機会になることを期待している。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・松田昭憲：第1回で連絡 ・杉田康之：第1回で連絡
備考	担当教員は学校における教員、管理職の実務経験に加え、行政経験を生かしての講義を担当する。